

稲WCSを用いた乳用牛の育成方法の確立

試験年度：R5～R7

【背景・目的】

近年、原油価格の高騰や円安等の影響により、輸入乾草の価格は高値が続いており、今後もしばらくは続くものと思われます。酪農経営の安定のためには、生産性を落とさずに、経営コストの5割を占める飼料費をいかに低減するかが課題となっています。稲WCSは安価で安定的に確保できるとともに、安全・安心な国産飼料であることから、県内で広く栽培され、搾乳牛では利用が増加しつつありますが、育成牛への利用はあまり進んでいません。

そこで、当研究所では、稲WCSを育成牛に給与し、発育及び繁殖成績への影響調査を行うなどして、低コスト育成方法を検討、確立するための試験に取り組んでいます。

【成果の内容】

1 育成牛（8～15か月齢）への稲WCS等給与試験

- ・試験区6頭、対照区6頭で給与試験を実施。
- ・試験区は、輸入乾草の7割を稲WCSに置き換えて給与し、対照区は、輸入乾草と配合飼料を給与する従来の給与方法とします。なお、1日の給与量は表1のとおりです。
- ・試験区の飼料は、稲WCSと乾草を混ぜたものを給与し、対照区は乾草と配合飼料を分けて給与しました。
- ・発育は、両区とも順調であり(図2)、血液性状も全て基準の範囲内でした。
- ・また、BCS(※)は、8～11か月齢までは両区とも2.75～3.25(標準3.0～3.5)と削瘦や過肥になっていないが、12か月齢以降は対照区がやや過肥でした。



図1 試験の状況

※BCS…ボディコンディションスコアと言い、牛の栄養状態を数値化したもの。数値が大きいほど太っていて、小さいほど痩せている。

表1 1日分の現物給与量(8か月齢)

	濃厚飼料(kg)		粗飼料(kg)			飼料コスト(円)
	育成配合	※注1 添加剤	※注2 稲WCS	チモシー	スーダン	
試験区	2.0	1.0	14.0	1.5	0.5	539.6
対照区	2.0	1.0	0.0	4.5	1.5	1011.0

※(注1) 添加剤…バイパスタンパク飼料。ルーメンで分解されずに第四胃以降で分解される飼料。

(注2) 稲WCS…「つきすずか」茎葉型専用品種

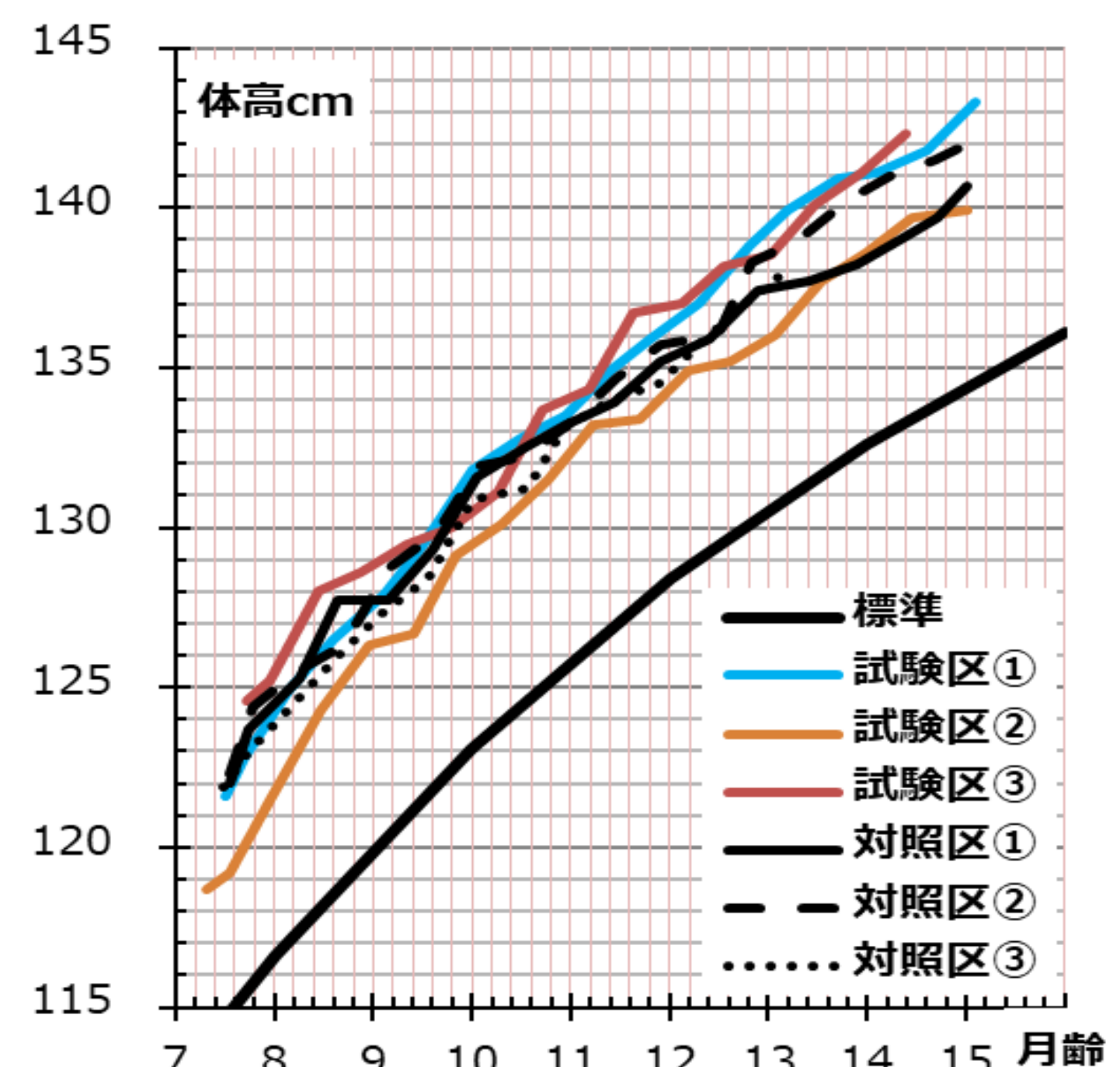


図2 供試牛の体高推移

2 現地調査

- ・酪農家に対し稲WCSの育成牛への利用調査を行います。(育成牛への給与の意向や給与する際の不安要素等)
- ・調査方法は、岡山県酪農経営支援チームの農家巡回に併せて調査を行います。

- 【得られる効果】
- 稲WCSの給与による不安解消
 - 飼料コストの低減
 - 後継雌牛の育成基盤の強化



稲WCS給与に対する懸念を解消
飼料費の低減により酪農経営の安定を図る



お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター
久米郡美咲町北2272

畜産研究所

TEL. 0867-27-3321